

この広い書院は 18 世紀後半に寺院の訪問者をもてなすために建設された。毛利家の藩主は書院にある部屋を訪問者に会い、お茶をたてるのに多用した。主な部屋には大名の席の後ろに秘密の部屋があり、警備の者が万が一に備えて隠れられるようになっていた。毛利氏は船に乗って下流にある城に移動する前後に、後方にある部屋を着替えや休憩をするのに利用した。建物の年齢にもかかわらず、茶室は今日にいたるまで使用されている。